

湘南OT交流会

～カナダモデル CMCE～

短期集中予防サービスの利用者に対して
CMCEの視点で介入した事例

株式会社つむぎ

作業療法士：長田 啓

クライアント中心の可能化の技能

■ 適応：

人と環境と作業がうまく合うように人を変えたり道具を使ったりやり方を工夫する。

■ 代弁：

クライアントに代わってまたはクライアントと一緒に必要な事を主張し働きかける。

■ コーチ：

クライアントが自らの力で目標を明確にし、利点や課題に気づき行動し、成長して行けるように質問し対話する。

■ 協働：

クライアントとOTが共通の目標に向かってそれぞれの役割を担い一緒に取り組む。

■ 相談：

クライアントからの相談に乗り、情報を集め、原因を分析し具体的な解決方法を提案する。

クライアント中心の可能化の技能

■ 調整：

関係者や関係機関とのネットワークを作り他者を巻き込み連携する。

■ デザインと実行：

アイデアを出し、新しく道具を作製したりプログラムやサービスを計画して実行する。

■ 教育：

見本を見たり説明したり、クライアントが練習する機会を作り必要な情報、知識、技能を教える。

■ 結び付け：

人と作業がしっかりと結びつくように、作業の意味を見出し作業の価値を高めたり、新たな作業や方法を提案し行う機会を作る。

■ 特殊化：

特定の効果を狙って疾病や障害の状態に合わせた治療法や技術を使う。

基本情報

- A氏, 80代女性.
- 夫と2人暮らし.
- 2人の娘はそれぞれ県外在住.
- 自宅から400m離れた畑で畑仕事や地域住民と交流することが日課
- バスでスーパーや百貨店に買い物に行くことが楽しみ

基本情報

- X年2月畑仕事後、不調を訴え緊急搬送、急性大動脈解離でB病院に入院。
- 2ヶ月後に退院。
- X年6月末より弊社の短期集中予防サービス事業の通所サービスと訪問サービスを合わせて週1回利用開始。
- 要支援2。
- 医師からは血圧の上昇に留意し、収縮期血圧160mmhg以上になった場合リハビリを中止することと申し送りを受けた。

鳥取市の短期集中介護予防サービス（C型）



短期集中予防サービスで 身体の状態を回復させましょう！

短期集中予防サービスとは

理学療法士・作業療法士などの**リハビリ専門職**が筋力・持久力・バランス力等の評価を行いながら、集団・個別プログラムにより短期間で集中的に**身体機能・動作能力の改善**を目指します。

“個人の目標達成”に向けた**自立支援**を行うサービスです。

■ 「通所型」短期集中予防サービス

リハビリ専門職による機能訓練を**週1～2回**、**1回あたり約90～120分**、**原則3ヵ月間**集中的に行い、居宅における日常生活での困りごとが自分自身でできるようになるように支援します。

■ 「訪問型」短期集中予防サービス

リハビリ専門職が**月1～2回**、**1回あたり約40～60分**、**原則3ヵ月間**居宅を訪問し、通所型短期集中予防サービスで訓練した生活動作が居宅で実施できるよう支援します。

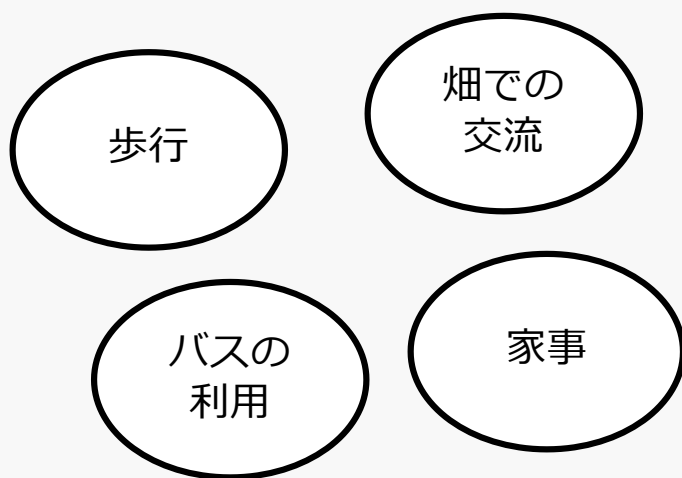


通所と訪問をうまく組み合わせて、自立した生活ができるよう支援します。

■ 自己負担の目安 … 令和元年度は無料 ※令和2年度以降適切な利用料を設定予定

A氏のサービス開始前の様子

入院前と比べ作業の形態が変化！



全て思うようにいかない。



息切れもあり、足に力が
入りにくく、思ったよう
に生活ができていない

活動量の評価

	初期評価時
運動量	43kcal
歩数	2,159歩
移動距離	1.6km

※厚生労働省が定める70歳以上の歩数基準値：4,604歩

身体機能評価（鳥取市指定項目）

- 長座体前屈：52cm
- TUG：11.59秒
- 30秒立ち上がり：11回
- 片脚立位 右：2.05秒、左：2.08秒
- 握力 右：22kg、左：24kg

30kgの米俵を担いでいた！



The image features two large, thick black L-shaped brackets. One is positioned in the upper-left quadrant, and the other is in the lower-right quadrant, both pointing towards the center of the page. The background is a light gray gradient.

作業療法評価

カナダ作業遂行測定 (COPM)

作業名	遂行度	満足度	本人の語り
1. バスの利用	1	1	前のようにバスを利用して街に買い物へ出たいが、1人では 自信がない 。
2. 畑に行く	5	4	夫に連れて行ってもらっており自分の 好きな時にいけない 為、地域の人との交流ができなくなった。
3. 家事	5	6	3年後に娘と同居するがそれまでは自分で家事をしないと いけない 。息切れにより料理も掃除も 以前のようにできなくなった 。
4. 結婚式への出席	1	1	孫の結婚式が3ヶ月後にある。孫から来てほしいと言われているが、 歩行に不安があり行ける自信がない 。

バスの利用について

A氏の発言：

バスに乗るのは自信がない。病気をしてから1回もバスに乗ったことがない。
出先で歩けなくなったらどうしよう。

バスの利用における技能：

乗車バスの確認や時間の認識など正確に行える。
バスの乗り降りは手すりを使えば安全に可能。
平地で30分程度のゆっくりとした歩行であれば血圧の変動なし。

身体機能：

以前に比べて全身の易疲労性，下肢の筋力低下あり。



評価のまとめ

- 解釈：

疾患の影響によって身体機能が低下し、入院前と同じ作業遂行が難しくなった。その結果、活動量の低下を招き自信も低下している。

可能化の基盤である可能性の見通しが持てない状態。



- ①血圧を考慮しながら活動量の増加を図る
- ②入院前の作業の獲得を目指しCMCEの視点で可能化の技能を用いて介入する。

ディスカッションの話題提供

バスの利用の可能化に向けて，CMCEの何の技能を用いて介入すると効果的かディスカッションしていただきたいです。

作業を可能にするための10の技能	
適応	調整
代弁	デザインと実行
コーチ	教育
協働	結び付け
相談	特殊化





回答例

バスの利用

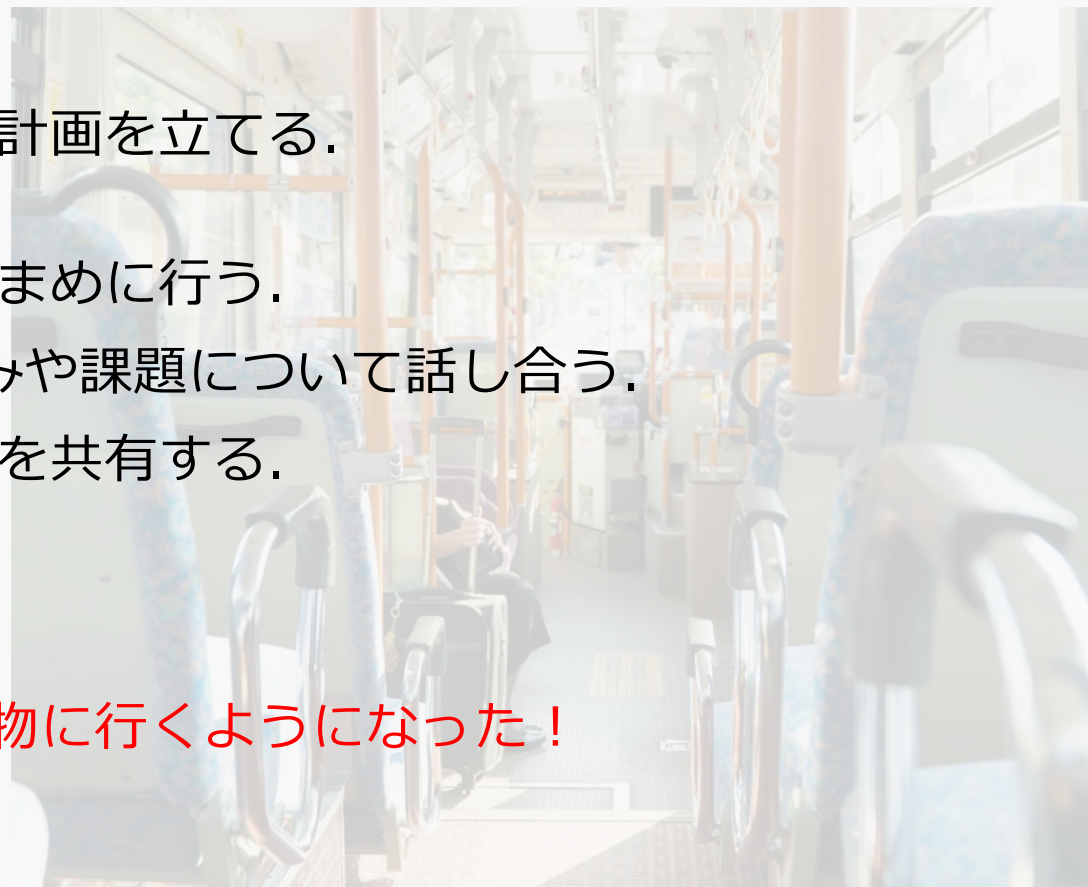
目標：バスを利用し百貨店やスーパーに買い物に行けるようになる

介入の流れ：

1. 実際にバスに乗り，買い物に行く計画を立てる.
2. 計画に沿って練習を実行.
練習の際はバイタルチェックをこまめに行う.
3. 練習してみて気づいた，A氏の強みや課題について話し合う.
4. 目標を達成できたという成功体験を共有する.



介入の翌週からバスを利用して買い物に行くようになった！



バスの利用の可能化のために用いた技能

適応	バスを利用して買い物に行くことを実際に練習し、成功体験を得ることでA氏が自信を持ち継続してバスを利用することを可能にした。
コーチ	バスを利用して気づいた。A氏の強みや課題に対して対話し、励ます声かけを意識して行なった。課題に対しては、どのようにしたら作業が可能になるか1つずつ確認した。例) 重い荷物をどのように持つか、どこで休憩するか、バスを待つときはどうするかなど
協働	バスを利用し百貨店やスーパーに買い物に行けるようになるという目標を共有し協力して取り組んだ。A氏と話し合いながらバスの時間を調べたり、バス停の確認などを行い一緒に計画を立てた。
結び付け	バスを利用して買い物に行くということをA氏が選択し、行うようになった。

畑に行く

目標：1人で畑に歩いて行き，地域住民と交流ができる。

介入：

1. 血圧の変動を測定しながら畑までの歩行を評価
2. 坂道では，休憩を3回⇒5回へ
3. 地域住民に了承を経て休憩場所に椅子を設置椅子（ケース）に座り息を整える事を提案.
4. 血圧の変動がなく，畑に1人で行けるようになり，椅子を出して座っていると地域住民がA氏の所にやってくるようになり交流が再開

家事

目標：妻として疲労感なく家事ができる。

介入：

1. 家事（調理，掃除）の作業遂行技能をAMPSで評価
2. AMPSの結果（motor：1.1ロジット process0.3ロジット）をもとに環境を調整することを提案。



3. 環境を変えずに休憩しながら家事を行うことを選択（物干し竿の高さのみ調整）



結果

- バスを利用して買い物にも行けるようになり，畑に植える苗を買いに行くなどしている.
- 畑に毎日一人で行けるようになり，地域の方との交流も行っている.
- 孫の結婚式にも出席することができた.
- 家事も休憩をしながら行い，「昔のようにやってるよ」と話した.
- サービス終了半年後も畑仕事，家事，バスの利用を継続していることを確認した.



最終評價

カナダ作業遂行測定 (COPM)

作業名	遂行度	満足度
1. バスの利用	1 ⇒ 9	1 ⇒ 9
2. 畑に行く	5 ⇒ 7	4 ⇒ 7
3. 家事	5 ⇒ 9	6 ⇒ 9
4. 結婚式への出席	1 ⇒ 9	1 ⇒ 9

活動量の評価

	初期評価時	最終評価時
運動量	43kcal	91kcal
歩数	2,159歩	4,280歩
移動距離	1.6km	3.1km

※厚生労働省が定める70歳以上の歩数基準値：4,604歩

身体機能評価

- 長座体前屈53cm (52)
- TUG : 9.28秒 (11.59)
- 30秒立ち上がり : 15回 (11)
- 片脚立位右 : 3.26秒 (2.05) 、 左 : 12.17秒 (2.08)
- 握力右 : 24kg (22) 、 左 : 24kg (24)

まとめ

- 今回、CMCEの視点で可能化の技能を用いて介入したことにより、A氏は可能性の見通し持つことができ、作業遂行を可能にし習慣化に繋がったと考える。
- 今回の事例のように作業に焦点を当てた実践は作業が可能化するだけでなく、活動量の増加に伴い身体機能の向上にも繋がる可能性がある。